

スポーツ大学生の服装が景観に与える影響についての研究

石田 皓 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード：服装，景観，大学と服装

1. 緒言

「服装の乱れは心の乱れ」という言葉は、主に学校教育現場の生徒指導の際に用いられてきた。これは一般に定められた場での服装の乱れを指摘し改善するための言葉であるが、実際にそのような関係があるのかは、ありえると感じるものの、時と場合によっては定かではないかと考える。

運動着は「だらしない」というイメージがあっても、景観としてはどう捉えられるのかということに目を向けた。本研究では、本学の学生が運動着は本学の景色と合うのか、また、服装にあった景色があるのかをアンケート調査によって明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究は、本学の学校スポーツコース、トレーニング・健康コース、スポーツビジネスコースを対象に、キャンパス、教室、グラウンド別の景観に対する学生の服装の影響についての調査を行った。

3. 結果と考察

1) 全体の結果

キャンパスと教室では私服が良く似合っており、グラウンドでは悪い印象である。それに対して、グラウンドではジャージが良く似合っており、私服は悪い印象である。そのことから、TPOに応じて服装を変えることが重要だということがわかった。

表1 グラウンドとジャージの写真を見た回答の実数

(8)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1	12	16	11	5	3	13	12	16	11	24	20	10	1	2	26
2	17	18	19	22	10	18	19	21	16	15	16	15	15	5	11
3	14	5	13	15	19	10	11	6	16	4	8	18	22	23	5
4	2	6	2	2	10	3	2	2	1	2	1	2	6	13	3
5	0	0	0	1	3	1	1	0	1	0	0	0	1	2	0

2) コース別の比較

「トレーニング・健康コース」と「学校スポーツコース」はジャージ肯定派であるのに対して、「スポーツビジネスコース」は私服肯定派であった。このことから、「スポーツビジネスコース」の学生はジャージと私服の場に応じた使い分けができると考えられる。

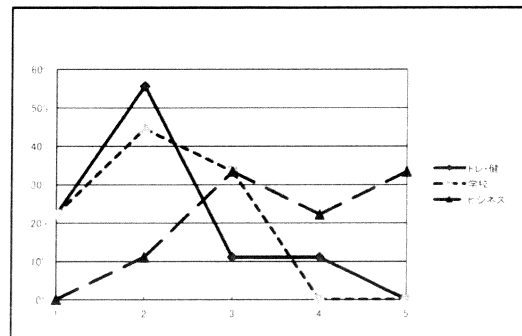


図1 (2)-1 キャンパスとジャージの写真を見た回答のコース比較

4. まとめ

今回の調査結果から、ジャージや私服は景観に大きな影響を与えることが明らかになった。キャンパスの景観と教室の景観にジャージや私服が紛れ込んでもあまり影響がなかった。しかし、グラウンドの景観に私服やジャージを合わせると、結果は一目瞭然であった。回答の項目を見ると、グラウンドとジャージでは肯定的な印象になり、グラウンドと私服では否定的な印象となった。つまり、学生自身がTPOに応じて服装を変えることを意識することが最も重要であり、そのことにより大学の印象を変えることが可能であると考えられた。

引用・参考文献

竹内一郎 (2005) 人は見た目が9割. 新潮社, pp.87-89.

竹内一郎 (2013) やっぱり見た目が9割. 新潮社, pp.117-119.